

次期学習指導要領 1枚まとめ｜小学校

社会 小学校

覚える社会から、問いと確かな情報で探究する社会へ

10秒でいうと

4年「県内の特色ある地域」は3地域→2地域に精選。情報の正しさを確かめる技能を加える

小学校の社会は、身近な地域から国際社会へと広げる考え方を続ける方向です。そのうえで、グローバル化などの地域の変化も内容に入れるとされています。内容は重なりを整理してしぼる案です。調べてまとめる力には、情報が確かかどうかを確かめる力が加わる方向です。教科書が歴史の通史にならないようにすることも示されています。

1 4年「県内の特色ある地域」は3つから2つへ

今は、地場産業、国際交流、資源の保護・活用の3つの地域を同じように扱うことになっています。次期は、このうち2つの地域を選ぶ方向でしぼる案です。5年の「産業と情報」は、新しい「情報の領域」と役割を分け、情報を生かす産業の役割に重点を置くとされています。P153

授業では 県内の2つの地域を選び、それぞれの特色を時間をかけてじっくり比べて調べる。そんな単元の組み方が考えられます。

2 「確かな」情報で調べてまとめる

ネットの情報には、真偽や意図、背景が分かりにくいものがあります。そこで、調べてまとめる技能に「情報の妥当性の確認」（情報が確かか確かめること）を新たに位置付ける方向です。小中学校では「確かな」情報に基づき、「適切かつ」効果的に調べまとめるとしています。P148 P159

授業では 調べ学習のカードに「この情報はだれが出したか」「ほかの資料でも同じか」を書く欄を作る。そんな工夫が一例です。

3 歴史は人物と文化遺産で大まかに

小学校の歴史は、人物の業績や優れた文化遺産を通して、世の中の動きを大まかに理解する構成です。事象を網羅的に扱うものではないとされています。そのため、教科書が通史（すべての時代を順に追う形）にならないよう促す方向です。P155

授業では ある人物の働きを中心に「なぜこの人は人々に支持されたのか」という問いで1時間を組み立てる。そんな授業が考えられます。

4 主権者教育を体験から

主権者教育を「深める」と「広げる」の両方から進める方向です。子供が主体となる模擬選挙や模擬議会などの実践的な活動を進めるとしています。こども基本法をふまえ、特別活動とも連携し、子供が実感をもって活動する機会を充実するとしています。P157 P158

授業では 学校のきまりや地域の課題について意見を出し合い、話し合って決める模擬議会を開く。そんな活動が一例です。

ほかにも変わること（小学校）

- 学習内容をしぼり込む（具体例が示された） P153 P154
- 他の新しい教科・領域と役割を分ける P153
- 「調べまとめる技能」に情報の正しさを確かめる力を加える P148 P159
- AIに頼った成果物が通用しない評価を工夫する P146 P159
- 主権者教育を「深める」「広げる」 P157 P158
- 社会の変化をふまえて扱う内容を充実する P156

原田英語.com 次期学習指導要領ナビ｜
https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/download/
｜2026年11月4日 版

研修・会議・授業・保護者会での印刷・コピー・配布・投影はご自由にどうぞ。
ご連絡は不要です。出典：審議まとめ（2026年10月5日）。告示前の方向性です。